

産業別四半期見通し調査結果

(2018年7-9月期見通し)

■ 県内産業天気図

◇ 2018年4-6月期の現況

➤ 全17業種中、「晴れ（好調）」が5業種、「薄日（順調）」が3業種、「曇り（普通）」が8業種、「小雨（低調）」が1業種となった。

◇ 2018年7-9月期の見通し

➤ 見通しも、「晴れ（好調）」が5業種、「薄日（順調）」が3業種、「曇り（普通）」が8業種、「小雨（低調）」が1業種となった。方向感では、「やや上昇」が2業種、「横ばい」が15業種となっている。

天気図記号	2018年 1-3月期現況	2018年 4-6月期現況	2018年 7-9月期見通し
 晴れ（好調）	5 業種	5 業種	5 業種
 薄日（順調）	4 業種	3 業種	3 業種
 曇り（普通）	7 業種	8 業種	8 業種
 小雨（低調）	1 業種	1 業種	1 業種
 雨（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

■ 7-9月期見通しのポイント

- 製造業では、国内外の設備投資需要の増加に伴い「工作機械」「半導体製造装置」「産業用機器」「電子部品・デバイス」「光学・計器」の5業種が「晴れ（好調）」を維持する見通し。また「自動車部品」「プラスチック製品」の2業種が「薄日（順調）」を維持する見込み。
- 非製造業は、「大型小売」は「小雨（低調）」が続くとみられる。一方「自動車販売」は新型車効果により「曇り（普通）」「やや上昇」の見通し。また「民間工事」は、新設住宅で消費増税を見据えた動きが強まるとみられ「曇り（普通）」「やや上昇」の見通し。




















































照 会 先

一般財団法人 長野経済研究所
調査部（担当：桑井、久保田）
TEL：026-224-0501



<産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。


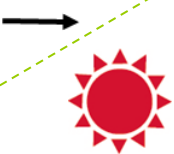
■調査期間：2018年6月中旬～7月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の139社

業 種	前期 (1-3月期)	今期 (4-6月期)	来期 (7-9月期)	
工 作 機 械			→	
半 導 体 製 造 装 置			→	
産 業 用 機 器			→	
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→	
自 動 車 部 品			→	
光 学 ・ 計 器			→	
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→	
飲 料 製 造			→	
食 料 品 製 造			→	
機 械 器 具 卸			→	
大 型 小 売			→	
自 動 車 販 売			↗	
公 共 工 事			→	
民 間 工 事			↗	
旅 客			→	
貨 物			→	
ホ テ ル ・ 旅 館			→	


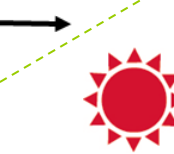
当研究所の注目業種

	7-9月期見通し
<p>工作機械</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ 国内は、自動車関連を中心に、半導体・電子部品・医療関連など幅広い業種で設備投資が続くほか、政府の投資促進策を利用する企業からの受注も動き始めるため、受注は高水準が続く見通し。▶ 海外は、北米や欧州向けが自動車産業を中心に需要は順調な推移が見込まれる。アジア向けは、中国でスマートフォン関連の需要が買い替えサイクルの長期化などから一服する可能性はあるが、自動車関連を中心に好調が続く見通し。タイ、インドネシアでも自動車向けを中心に堅調な需要が続く見込み。
<p>ホテル・旅館</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ 夏季行楽シーズンを迎え、宿泊利用は堅調に推移するとみられる。昨年は、天候不順が続き県内の宿泊者数は伸び悩んだが、今年は好天が続くとみられ、さらに猛暑が山岳観光や避暑地としてのリゾート需要に追い風になることも期待される。8月に全国高等学校総合文化祭（信州総文祭）が県内各地で行われ、5日間に延べ2万人超の関係者が集まるとみられ宿泊利用の増加も見込まれる。▶ また、企業活動も堅調な動きが続くとみられ、ビジネス利用も安定した推移が期待される。


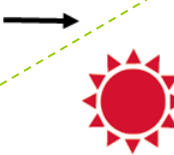
工作機械 : 設備投資の広がりで需要は好調に推移

<p>現況</p> 	<p>国内は、自動車関連を中心に、半導体・電子部品・医療関連など多くの業種で受注は好調に推移した。海外は、北米向けや欧州向けは自動車関連で順調に推移した。アジア向けは、中国では自動化投資が続いており、高性能な日本製機械のニーズは高く好調であった。タイやインドネシアでも自動車関連を中心に底堅く推移した。一方、工作機械の基幹部品であるリニアガイド（位置決め装置）等の部品不足は解消せず、納期の長期化が続いた。</p>
<p>見通し</p> 	<p>国内需要は、幅広い業種で設備投資が続くほか、政府の投資促進策を利用する企業からの受注も動き始めるため、高水準を維持する見込み。海外は、北米向けや欧州向けは自動車産業を中心に順調な推移が見込まれる。アジア向けは、中国はスマートフォン関連の需要が一服する懸念もあるが、引き続き設備投資意欲が高く自動車関連を中心に好調な見通し。タイやインドネシアでも堅調な需要が続く見込み。基幹部品の調達困難な状況は続くことが予想される。</p>


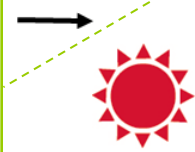
半導体製造装置 : 旺盛な中国向け需要などから装置受注は安定

<p>現況</p> 	<p>国内は、自動車等に搭載されるパワー半導体の生産ラインなどで既存設備を入れ替える動きが広がり、製造装置の需要は堅調だった。海外は、国策により半導体製造への投資が旺盛な中国を中心に、データセンター用サーバー向けのメモリーやIoT向けのセンサーの生産が増加し、関連装置の需要は大幅に増えた。ただ、スマートフォン分野では需要の伸びが鈍化した。業界全体では需要増加による人手不足や部品調達難への対応が十分に進まず、各社で生産の遅れが生じた。</p>
<p>見通し</p> 	<p>国内は、電子制御部品の搭載が進む自動車向けのパワー半導体製造で、高度な製品の生産に対応する装置への更新需要が見込まれる。海外は、中国を中心に引き続きメモリーやセンサーなどの半導体製造が見込まれ、スマートフォン向けも新機種の生産が立ち上がり、半導体需要を下支えするとみられる。国内外とも総じて装置受注は安定的に推移する見通し。人手不足や部品調達難への対応として、人員配置の見直しや設備投資に加え、品質・仕様を損なわない範囲で不足部品を調達可能なものに変更するなどの取り組みが進むとみられる。</p>


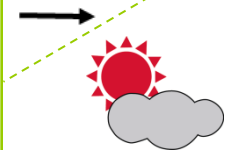
産業用機器 : FA機器は海外向けが需要をけん引する

<p>現況</p> 	<p>FA機器は、国内は自動車関連の設備投資が進展し、工作機械や産業用ロボット向けなどを中心に受注は順調だった。海外は、中国を中心に半導体やフラットパネルの製造が旺盛で、関連装置は好調に推移した。車載関連機器は、国内は新型車向けが堅調だったほか、海外も米国向けが底堅かった。冷却機械や空調機器などは、生産設備の更新・増強に伴い需要が増加した。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は、新設や機器更新需要から安定的に推移した。</p>
<p>見通し</p> 	<p>FA機器は、国内は自動車関連の生産に用いられる工作機械や産業用ロボット向けなどで順調な需要を見込む。海外は、中国を中心に半導体やフラットパネル等の製造装置向けが引き続き需要をけん引する見通し。車載関連機器は、国内は新型車向けが堅調に推移し、海外は米国向けの受注が継続して底堅いとみられる。冷却機械や空調機器は、設備投資に伴う需要増加が見込まれる。住設機器は、設備の新設・更新需要が続くとみられる。</p>


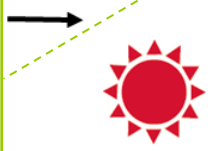
電子部品・デバイス：車載用や製造装置を中心に受注は好調を維持する見込み

現況	スマートフォン向けは、中低価格帯の機種が生産水準は横ばいであったが、高価格帯の機種では減少が大きく、総じて低調となった。一方、車載用電子部品は、国内・海外ともに需要は強く、モデルチェンジにより新たな受注も増加して好調に推移した。また、世界的に好調な半導体需要を背景に、各種の製造装置に組み込まれる電子制御部品などは高い受注水準にあり、工場建設などで増産対応するところもみられるなど好調に推移した。
	
見通し	スマートフォン向けは、新機種の生産が立ち上がり、徐々に生産水準が高まる時期であるが、スマートフォンの需要は買い替えが中心でサイクルも長期化していることなどから、前年の水準には届かないとみられる。一方、自動車向けは、国内・海外ともに駆動装置やブレーキ、ステアリングなどさまざまな領域で需要は高まっており、受注は好調を維持する見通し。製造装置などに組み込まれる電子部品は、世界的な半導体需要を背景に受注は高水準が続く見通し。
	


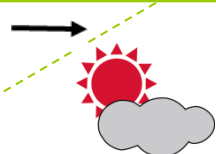
自動車部品：国内外とも堅調な需要が続く

現況	国内は、新型車向けを中心に部品受注は堅調だった。特に軽自動車向けは、モデルチェンジの効果などから受注を伸ばした。海外は、北米向けは、米国で安定した部品受注がみられ需要は堅調だった。アジア向けは、販売台数が伸びているタイなどで受注増がみられ、中国は、燃費の良さや安全性能の高さに対する日本車への需要増などにより堅調に推移した。一方で、世界的な需要拡大に伴う資材価格の高騰によりアルミ等の価格が上昇しており、収益が圧迫される企業が一部でみられた。
	
見通し	国内は、新型車向けの部品需要が引き続き堅調に推移するとみられる。特に軽自動車向けはモデルチェンジに伴う受注増が期待される。海外は、北米向けは、米国を中心に安定した完成車需要が続き、堅調な受注が続く見通し。アジア向けは、販売台数の増加が見込まれるタイなどで、部品受注が引き続き増加傾向で推移する見通し。中国は、堅調な需要が続くとみられる。一方で、資材価格の上昇に伴う収益面への影響が引き続き懸念される。
	


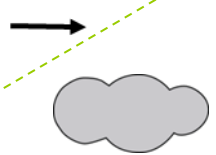
光学・計器：半導体製造装置や自動車向けなど幅広い分野で好調が続く

現況	光学機器関連は、半導体製造装置などに搭載される光学機器の受注が順調だった。また、自動車向けは、モデルチェンジに伴いLEDヘッドランプなどで新規受注があるなど好調だった。海外で販売される事業者用プロジェクター向けのレンズユニットは底堅く推移した。一方、スマートフォン向けは高機能製品の部品受注が減少した。計器関連は、中国・台湾など海外を中心に建機や半導体製造装置向けの受注が好調だった。ガスメーターも、国内は取り替え時期が続き順調に推移したほか、海外もインフラ向けで受注が増加した。
	
見通し	光学機器関連は、半導体製造装置向けなど産業用や、LEDヘッドランプなど自動車向けでは、安定的な推移が見込まれる。プロジェクターのレンズユニットも、高輝度の製品を中心に受注は順調に推移する見通し。スマートフォン向けは、新規モデルの生産が立ち上がる時期であるが、買い替えサイクルの長期化などにより前年の水準には届かないと予想される。計器関連は、半導体製造装置向け及び建機で順調が続くとみられる。ガスメーターは、海外のインフラ向けで受注が増加基調で推移する見通し。
	


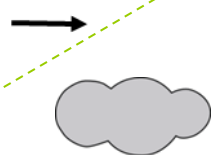
プラスチック製品 : 自動車向けや化粧品容器が好調を維持する見通し

<p>現 況</p>	<p>自動車関連は、国内外ともに、モデルチェンジによる需要増加の効果もあり、安全性能の高い車種を中心にコネクターやブレーキなどの部品受注が好調だった。また、容器類は、国内メーカーの高品質な化粧品に対する海外からの需要の高まりを背景に、化粧品容器向けの受注が高水準で推移した。OA・情報機器は、複合機の部品などが堅調だった。一方、スマートフォン関連は、一部の大手メーカー向けの部品が、高価格帯の機種で減少した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>自動車関連は、国内外ともに、安全性能の高い車種を中心にバックモニター等の各種コネクターやブレーキなどの部品受注は底堅く推移する見通し。容器類は、中国を中心に海外で人気の高い化粧品向け容器の需要が引き続き高い水準を維持するとみられ、受注は好調を維持する見込み。OA・情報機器は、複合機などの部品が引き続き堅調な見通し。スマートフォン関連は、一部の大手メーカー向けで新製品の部品生産が立ち上がり、段階的に増加していく見込み。</p>
	


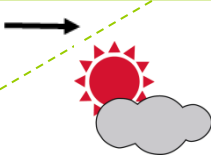
飲料製造 : 清涼飲料水を中心に夏場の需要増加を見込む

<p>現 況</p>	<p>清涼飲料水は、ミネラルウォーターや茶系飲料の需要が安定的に推移し、総じて例年並みの生産水準となった。果汁・野菜飲料は、リンゴやトマトなどの原料不足に伴う生産調整が一部で継続するなど、生産量は例年をやや下回った。清酒は、普通酒を中心に全体の需要量が低迷する中、特定名称酒や生酒・冷酒などが販売を下支えした。ワインは、国産原料を用いた日本ワインの人気銘柄が品薄になるなど、堅調な需要動向となった。飲料業界全体では、包装資材価格の上昇や物流費の増加などがみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>清涼飲料水は気温の上昇に伴い最需要期となり、天候不順の影響がみられた前年の生産量を上回り、需要の増加を見込む。果汁・野菜飲料は、夏場に収穫期を迎えるトマトや果物などの調達が計画通りに行われ、例年並みの生産量を回復する見通し。清酒は、生酒・冷酒などの季節限定商品に加え、夏バテ予防効果が期待される甘酒などを中心に販売促進を図る。ワインは、人気銘柄の品薄が続くとみられ、総じて安定した需要が見込まれる。</p>
	


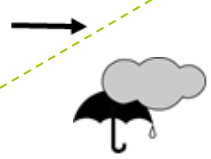
食料品製造 : 需要は堅調も燃料費や物流費等コスト増加を懸念

<p>現 況</p>	<p>味噌は、即席などの需要が堅調だった。製粉は、需要期を迎え、前年を上回る売り上げを確保した。大豆関連商品、コンビニ向け惣菜、乾燥食品は、健康や簡便性の高い商品など付加価値の高い商品の売り上げが好調だった。加工肉は、安全性が高い商品で受注が増加したものの、輸入原材料の豚肉などの価格上昇により収益環境が悪化した。全体として、需要は堅調に推移したものの、燃料費や物流費などコストの増加は収益を圧迫した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>味噌は、簡便さを訴求した商品の需要が底堅いとみられる。製粉は、最需要期を迎え、引き続き前年を上回る売り上げを確保する見通し。大豆関連商品や乾燥食品は、高付加価値商品を中心に需要が拡大するとみられる。コンビニ向け惣菜は、夏の行楽需要に伴う売り上げの増加が期待される。加工肉は、原材料価格の上昇が続くとみられ、厳しい収益環境が続く見通し。全体として、堅調な需要が続く見込みであるが、燃料費や物流費等コストの増加は引き続き懸念される。</p>
	


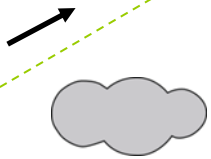
機械器具卸 : 堅調な設備投資を背景に機械需要は順調に推移

<p>現況</p>	<p>製造業を中心に多くの業種で設備投資の動きがみられたほか、政府の投資促進策が下支えし、機械設備の需要は順調に推移した。投資目的は機械の維持・更新が中心であるが、増産や省力化のニーズも多くみられた。ただ、基幹部品不足に伴う一部機械の納期の長期化は続いた。</p>
	<p>機械に取り付ける切削用工具類や、金属板等の消耗品の受注は、自動車関連メーカーを中心に生産が活発であったことから順調だった。配線機器や分電盤などの電設資材の需要は、一般住宅向けは堅調であったものの、全体では大型案件は少なく低調であった。</p>
<p>見通し</p>	<p>幅広い業種で設備投資が続くことが見込まれ、機械需要は引き続き順調に推移する見通し。</p>
	<p>また、猛暑が予想されており空調機器の需要増加が期待される。一方で、一部機械における納期の長期化は続く見込み。製造業の生産は高水準が続くとみられ、消耗品の需要は順調な見通し。電設資材は、民間工事では拠点整備など設備投資の予定もみられるが、公共工事で大型案件は少なく、全体では取扱量は少なく弱い動きが続く見込み。</p>


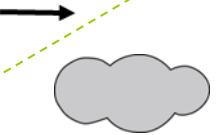
大型小売 : 食料品は堅調に推移するも、競争激化が懸念される

<p>現況</p>	<p>百貨店は、来店客数は伸び悩んだものの、化粧品などの雑貨が好調だったほか、物産展による売り上げなど食料品の一部は堅調に推移した。衣料品は、雨天など天候不順による影響もあり、振るわない状況が続いた。スーパーは、野菜の価格が前年より下がるなどで生鮮食品は苦戦が続いたものの、総菜や飲料などの売り上げが増加したことから、食料品は総じて堅調だった。しかし、消費者の低価格志向から価格競争が続いたほか、ドラッグストアなど他業態との競争により客数にも影響が生じた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>百貨店は、化粧品などの雑貨は改装効果もあり売り上げ増加が見込まれるほか、物産展などの食料品催事や中元ギフトなどは堅調に推移する見通し。一方、主力の衣料品はセールなどを中心に夏物衣料の販売増加が期待されるものの、猛暑などによる客足への影響が懸念される。</p>
	<p>スーパーは、生鮮食品を中心に堅調な推移が見込まれるほか、季節商品なども売り上げ増加が期待される。一方、消費者の買い物に対する慎重な姿勢は今後も続くことが予想され、食品を扱う業態の増加など、業態を越えた価格競争の激化が懸念される。</p>


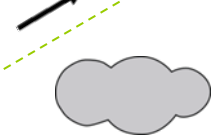
自動車販売 : 新型車効果により堅調に推移

<p>現況</p>	<p>新型車効果などにより軽自動車のほか、安全性能の高い車種等で販売が堅調だった。一方で、売れ筋車種であるSUV等の販売が落ち着いたことに加え、一部完成車メーカーの燃費データに関する不正問題の影響などもあり、全体の販売台数は前年を下回った。中古車は、環境性能など消費者のニーズを捉えた車種で販売を伸ばした。輸入車は、低価格帯などの車種を揃えることで幅広い消費者の需要を喚起し、前年を上回る販売量を確保した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>複数の完成車メーカーからモデルチェンジ等に伴う新型車が投入されることから、販売増加が期待される。また、消費者の安全性への需要は強く、ニーズに対応する車種の販売も底堅いとみられる。全体としては、一部完成車メーカーにおけるデータ不正等の影響が懸念されるが、販売量は堅調に推移する見込み。中古車は前年並みの販売台数を確保する見通し。輸入車は、幅広い年齢層で需要が拡大しており、引き続き好調な販売量を維持するとみられる。</p>
	


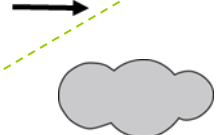
公共工事 : 小型工事の増加などから、前年並みの工事量を維持

現況	官公庁から発注される工事件数の増加により、工事量は例年の水準を上回った。発注者別にみると、国や独立行政法人等では道路などのインフラ関連工事が、市町村や広域連合では新庁舎などの建設工事が発注されたが、大型工事の件数は前年に及ばなかった。一方、県では、防災・減災関係などの小型工事が増加した。人手不足など労働環境改善のため、4月から、県発注の工事において、受注者の希望により週休二日を実施できるよう工期の延長などを認める取り組みが始まった。
	
見通し	引き続き小型工事の件数が増えるものの、国や独立行政法人等のインフラ関連工事や、県の学校施設の改修・増築工事といった大型工事も予定され、前年並みの工事量を維持する見通し。人手不足の問題では、特に施工管理を行う技術者が不足し、県内事業者間で即戦力となる中途採用者の取り合いが起きているほか、若手人材の確保・定着も引き続き課題となる見込み。鋼材などの資材価格は引き続き高値圏で推移する見通し。
	


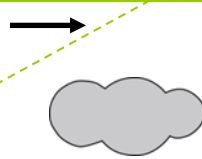
民間工事 : 住宅需要は徐々に上向き見通し

現況	民間企業の建設投資は、製造業では機械や食品関連などの工場新設があったほか、非製造業では宿泊業などの増改築工事があり、全体を下支えした。新設住宅は、2019年10月に予定される消費増税を見据えた住宅展示場の来場者数の増加はみられたものの、契約増加には至っていない。貸家は相続税の節税策や遊休不動産の有効活用策として根強い需要があり、前年並みの水準を維持した。一方で、資材価格が高値圏にある中、販売価格への転嫁が進まず、収益改善はみられなかった。
	
見通し	民間企業の建設投資は、製造業による工場の新設が複数予定され、安定した工事量となる見通し。新設住宅は、持家で消費増税を見据えた動きが強まり、契約数も徐々に増え始めるとみられる。分譲も用地確保や着工に向けた具体的な動きが始まると予想されるほか、県内の中核市で高層マンションの建設が予定されるなど、堅調に推移する見通し。貸家については引き続き相続税の節税策としてのニーズから底堅い需要が見込まれる。
	


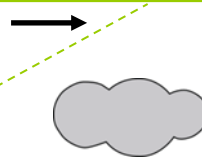
旅客 : 夏季の観光シーズンを迎え、例年並みの利用者数を見込む

現況	高速バスは、観光利用、ビジネス利用ともに利用者数は例年並みであった。観光路線バスは大型連休を中心に山岳観光路線が堅調であった。貸切バスは大手旅行会社からの引き合いがあったものの、ドライバー不足で応えることができず、収益機会を逸することもあった。軽油価格の上昇に加え、ドライバーの待遇改善に伴う人件費の増加などから利益は減少した。鉄道は観光客の利用がやや増加し、中でもイベント列車が好調を維持した。タクシーは、日中の利用者数は例年と同程度であったが夜間利用はやや低調だった。
	
見通し	夏季の観光シーズンを迎え、高速バスは観光需要の取り込みにより、ほぼ例年と同程度の利用者数を見込む。ビジネス利用は堅調な企業活動により安定して推移する見通し。観光路線バスの利用者数は山岳観光地を中心に順調に推移することが予想される。貸切バスは需要はあるものの、ドライバー不足により需要に応じられない状況が続く見通し。鉄道は、イベント列車の人气が継続する見通し。タクシーは、日中利用、夜間利用ともに利用者数は横ばいで推移する見込み。
	

貨物 : 飲料品の増加をはじめ、貨物量全体も堅調な見通し

<p>現 況</p>	<p>全体の貨物量は堅調に推移した。荷種別では製造業からの受注が多く、特に大型機械や自動車部品が増加した。しかし、ドライバー不足により、受注量を制限する事業者も出てきた。</p>
	<p>大手運送業者の値上げが一助となり、県内事業者の中には運賃の値上げにつなげられた事業者もみられた。一方で、燃料価格や人件費、庸車代などのコストが上昇した。コストの上昇に対応するため、一部事業者は共同配送による帰り荷の確保や、荷待ち時間の削減などの業務の効率化を進めた。</p>
<p>見 通 し</p>	<p>全体の貨物量は堅調に推移する見通し。自動車部品を中心として、引き続き製造業からの堅調な荷動きが予想される。飲料品は、夏季の需要の高まりにより増加が見込まれる。ドライバー不足のため、受注量を制限する状況は続く見通し。また、人件費や庸車代の一段の増加が懸念されるほか、燃料価格の高止まりが予想される。コストの増加分を補うために、荷主との価格交渉を一層進めることで、業界全体で徐々に運賃の値上げは進んでいくとみられる。</p>
	

ホテル・旅館: 夏季イベントの集客や9月の連休を中心に、堅調な利用を見込む

<p>現 況</p>	<p>観光客の利用は、日並びの良かった大型連休を中心に全体として堅調に推移した。一部では観光ルートの通行規制の影響で利用を減らした地域もあった。外国人観光客は、アジア諸国からの利用が順調だったほか、歴史や文化の観光を目的とした欧米系の利用増加もみられた。</p>
	<p>ビジネス客の利用は都市部を中心に安定して推移し、平日の稼働率を下支えした。プライダは全体的に件数・規模とも減少傾向にある中、営業活動の強化等により前年実績を上回る事業者もあった。改装等により競争力を向上させ、客室単価を高めた事業者もみられた。</p>
<p>見 通 し</p>	<p>観光客による宿泊利用は、夏季行楽シーズンを迎え各地で開催されるイベントによる集客や、9月に3連休が2週続く日並びの良さから、都市部・観光地ともに堅調に推移する見通し。</p>
	<p>特に、8月上旬に開催される全国高等学校総合文化祭（信州総文祭）では、5日間の期間中に全国から延べ2万人を超える参加者が予定されており、会場周辺地域では宿泊利用の増加が見込まれる。外国人観光客は、引き続きアジア諸国を中心に順調な利用が期待される。ビジネス客の利用は、堅調な企業活動を背景に、引き続き安定して推移する見通し。</p>